

井上通信

No.19

「鬼は外！福は内！」—2月といえば節分。寒さが残るこの季節、豆まきの掛け声とともに邪気を払い、心新たに春を迎える準備をする時期です。仕事においても、新たな気持ちで取り組むことが成長につながります。皆さんも潜む迷いや不安のような「鬼」を追い出し、ポジティブに前進しましょう。

そんな新しい一歩を踏み出す絶好の機会に、弊社でも「創業140周年史」が完成しました。130周年から140周年までの10年間の歩みを記録したこの一冊には、会社の成長や挑戦の軌跡が詰まっています。編集にあたっては、関係部署の社員やベテラン社員の協力を得ながら、多くの資料を紐解き、ひとつひとつの出来事を振り返りました。「あのときは大変だったな」「こんなこともあったのか」と思い出話に花が咲かしながら、ひとつの形にすることができました。この140周年史は、新入社員にとっては会社の歴史や企業文化を知る貴重な資料となります。そして、すでに会社を支える社員にとっても、自分たちが築いてきた足跡を振り返ること

上岡取締役の一言

先日初めてインド出張に行ってきました。高知を18時に出発、いろいろ経由してムンバイに到着したのは翌日の11時頃でした。日本とインドの間には3時間半の時差がありますので移動時間は17時間位です。12月～2月は乾季です。気温は30℃を超えますがとても過ごしやすい気候でした。ムンバイの街はとても活気があります。せっかくの機会ですので本場のインドカレーをたくさん頂きました。とても美味しかったです。インドの人口は14.3億人で世界一です。自動車産業を始め様々な産業にビジネスチャンスがあると思います。私たちもインド市場に大いに期待しておりこれから最大注力する予定です。

で、誇りと自信につながるはずで。過去を知ることで未来が見えてくる。その思いを胸に、私たちも次の10年に向けて新たな一歩を踏み出して参ります。



井上のお石灰な話

INOUEの思い出編

- 在職時の思い出や覚えていらっしゃることを教えてください -

私は、経理や事務全般でした。10人くらいがくると机を囲んで電話を置いて、社長だけちょっと離れていました。あっ、最初の頃は電話もありませんでした。申し込み制でした。稻生の郵便局に交換手がいて、朝頼んだ電話が昼頃にやっとつながる。もうその時にはなんの用事だったか忘れていたりして…。

(昭和37～63年在職 田中 登志さん談)



香港をはじめ東アジア各国のトップソムリエが日本のワインを評価する「Wassyu Award 2024」にて弊社の「tosacavatina」山北アルバリーニョ2023が最高賞のプラチナを受賞するという快挙で2024年を締めくくることができました。実は昨年2022年Vinのアルバリーニョもボーヌ(仏)で開催されたコンテストでゴールドを受賞しており海外で安定した評価を得ているアイテムとなります。よくコンテストで評価されるワインと売れるワインは違うという声を聞きますが、栽培不適地といわれる高知で栽培醸造したワインが諸外国、国内他産地のワインと比較され評価されることは造り手としては何よりも嬉しいです。



井上ワイナリー だより



昨日たるばあ飲んだき、こじやんと頭が痛い！

土佐の方言紹介 「たるばあ」

【意味】思う存分、たくさん

【説明】「たる」は満足、「ばあ」は約個の意味。これが組み合わさって、「たくさん」という意味になります。

【使い方】「今日はたるばあ飲もうや」（今日はたくさん飲もう）前に紹介した「こじやんと」に近い言葉です。また「たったかね(足りたかね?)」という形に変化して使われることもあり、「たる」だけで使われる場合もあります。